



ノボラピッド注フレックスタッチ
超速効型インスリンアナログ製剤
ノボノルディスクファーマ

【効】インスリン療法が適応となる糖尿病
 【用】本剤は持続型インスリン製剤と併用する超速効型インスリンアナログ製剤である。通常、成人では、初期は1回2～20単位を毎食直前に皮下注射する。なお、投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常1日4～100単位である。
 【副】添付文書参照



デエビゴ錠5mg
不眠症治療剤
エーザイ

【効】不眠症
 【用】通常、成人にはレンボレキサントとして1日1回5mgを就寝直前に経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、1日1回10mgを超えないこととする
 【副】傾眠、頭痛、倦怠感、悪夢など。その他添付文書参照



採用区分変更薬品

アクアチムクリーム 院外限定 → 採用

剤型変更

ニューモボックスNPバイアル → ニューモボックスNPシリンジ



当院採用睡眠薬の一覧	採用薬	一般名	不眠症用量 (mg)	ピーク時間 (hr)	半減期 (hr)	特徴
超短時間作用型	ハルシオン錠0.25mg	トリアゾラム	0.125-0.25	1.2	2.9	入眠困難の使用によいが、依存性があり、離脱症状が出現しやすい。健忘もみられる。 ※ルネスタ(エスゾピクロン)は脱力・転倒などの副作用、依存性が少ない。
	ゾルピデム酒石酸塩錠5mg	ゾルピデム	5-10	1.2	2.3	
	ルネスタ錠2mg	エスゾピクロン	1-3	1	4.8	
短時間作用型	プロチゾラムOD錠0.25mg	プロチゾラム	0.25-0.5	1.1	8.1	早期覚醒、熟眠障害によいが、持ち越し効果が問題となる。
	エバミール錠1mg	ロルメタゼパム	1-2	1-2	10	
中間作用型	フルニトラゼパム1mg	フルニトラゼパム	0.5-2	1.3	19.3	早期覚醒、熟眠障害によいが、持ち越し効果が問題となる。
	ユーロジン錠2mg (個人)	エスタゾラム	1-4	5	24	
	ニトラゼパム錠5mg	ニトラゼパム	5-10	1.6	27	
オレキシン受容体拮抗薬	ベルソムラ錠15mg、20mg	スボレキサント	10-20	1.5	10	せん妄リスク低いが、悪夢に注意。
	デエビゴ錠5mg (個人)	レンボレキサント	5-10	1.3	-	
メラトニン受容体作動薬	ロゼレム錠8mg	ラメルテオン	8	0.75	2	高齢者や身体疾患患者、睡眠相のずれに効果が期待される。